

第3回 **PLAY+STAY** 導入状況調査 報告書

2014年7月－8月



公益社団法人 **日本テニス事業協会**

アンケート回答者について

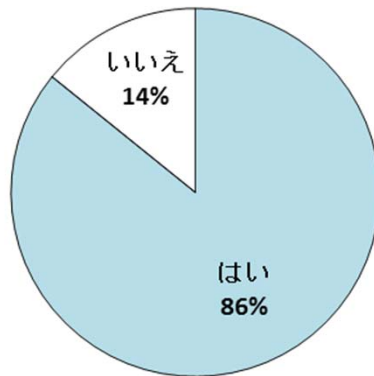
都道府県別 回答事業所数(※本社一括含む)					
	総数	内訳／導入済	／用具のみ	／予定あり	／未定・無
北海道	7	3	2		2
岩手県	1		1		
宮城県	2	1	1		
茨城県	2	2			
埼玉県	16	14	1		1
千葉県	14	13		1	
東京都	33	30	1		2
神奈川県	16	14	1		1
新潟県	1	1			
静岡県	1	1			
愛知県	6	4	1		1
三重県	1				1
滋賀県	1	1			
京都府	3	3			
大阪府	9	7	1	1	
兵庫県	18	17			1
奈良県	2	2			
広島県	2	2			
岡山県	2	2			
徳島県	1	1			
愛媛県	1	1			
福岡県	2				2
合計	141	／119	／9	／2	／11

回答者 役職名	
代表者	4
支配人・マネージャー	59
ヘッドコーチ	48
ジュニアヘッドコーチ	7
コーチ	13
その他・無記入	10
合計	141



※本社一括回答は東京都・愛知県の各1社

①貴方の事業所はPLAY+STAY指導方法を導入していますか？	
はい	121
いいえ	20



【導入していない理由】

- ジュニアのご父兄からあまりにも教えすぎないという意見が多いため。(4)
- 独自のカリキュラム・メニューでやっているため。(2)
- クラブ経営なのでレッスンがないため。(2)
- コーチの技術不足、勉強不足のため。(2)
- レッスンシステムになじまないため。
- 1クラスあたりの参加人数に対し指導方法が合わない考えるため。
- 年齢の区割りができないため。(人数・コート・時間割・コーチの確保)
- 大人数でのPLAY+STAYをどう行うかが課題。
- 一般の初級はほとんど2年以上の経験者であり、ジュニアは高学年の人数が多く不向きと思われる。
- 担当コーチに任せているため。

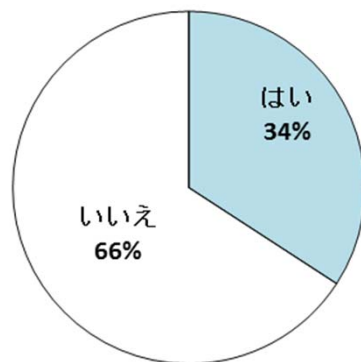
【参考資料】

「いいえ」とお答えの方のうち、ボール・コートサイズ等は導入している事業所数	9事業所
---------------------------------------	------



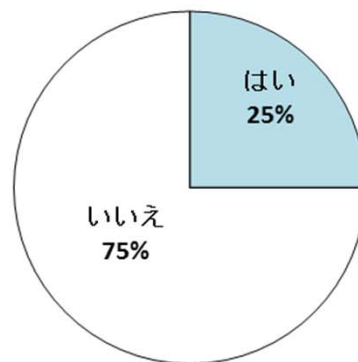
①貴所のホームページにPLAY+STAYの表記(ロゴを含む)をしていますか？

はい : 41 いいえ : 79



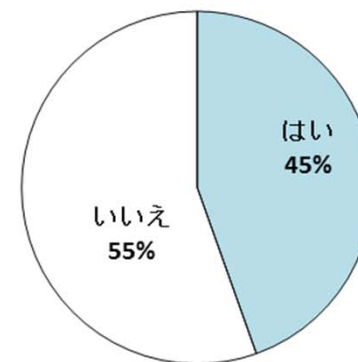
②貴所のホームページでPLAY+STAYの指導方法に関する解説などを掲載していますか？

はい : 30 いいえ : 90



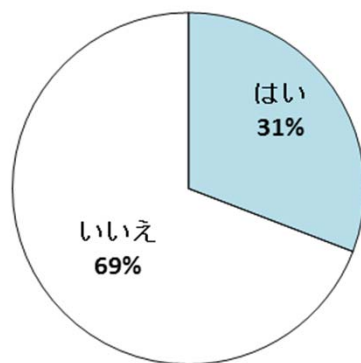
③貴所の生徒募集チラシなどにPLAY+STAYの表記(ロゴを含む)をしていますか？

はい : 53 いいえ : 66



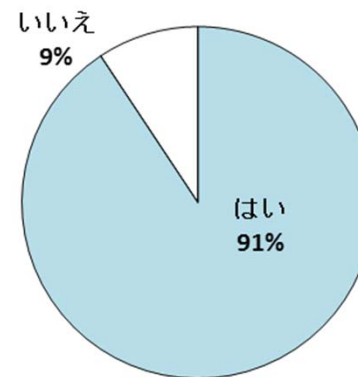
④貴所の生徒募集チラシなどにPLAY+STAYの指導方法に関する解説などを掲載していますか？

はい : 37 いいえ : 83



⑤PLAY+STAYのロゴ入り横断幕(バナー)があれば掲示可能ですか？

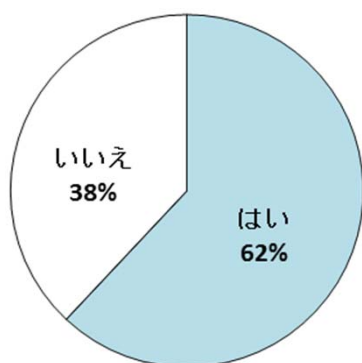
はい : 107 いいえ : 11



⑥PLAY+STAYの指導方法として、ITF推奨のものとは別に自社独自の手法を加えたオリジナルプログラムでレッスンを行っていますか？

はい : 75

いいえ : 46



【「はい」の具体的な内容】

- ボール出しによるドリル練習のメニューも行っている。(20)
- 従来の段階的指導とPLAY+STAYを融合させた指導を心がけている。(9)
- 保護者からの要望である、グリップやフォームの指導時間も入れながら行っている。(3)
- グリーンボールを利用していない。(3)
- ダウンサイズに拘らず大きなコートでのドリルも組み込んでいる。(2)
- ボールは色々使用するが練習内容によるものが多い。(2)
- ラリーをするだけでなく、体を無理なく無駄なく使えるようにするために道具を使って指導している。(2)
- 汗をたくさんかいてもらうプログラム等を組み込んでいる。
- 「面の向きを理解」「力加減の理解」「バウンドの予測」等の個々が持つ”能力”をしっかりと指導対象にしている。
- 「テニスが簡単！」から段階的にステップアップ出来るプログラムを構築できるかが課題。
- 競技者へ発展していくタイミング、その練習方法など勉強中。
- 独自の考え方を融合させたプログラムを作成中。
- 子どもの発育・発達、社会性や敏捷性を身に付けるための独自のプログラム「テニストライアルカード」という教本に則って、レッスンを進めている。
- 自社のジュニアクラブノートにて級付けを行い、級に応じたボールでレッスンを行っている。
- 経験者と初心者の子供達と一緒にテニスをする状況が多くあるが、ゲーム時などに個別にアドバイスをする事が多い。その中に打ち方など細かい部分に言及する事も多くある。
- ティーチングがかなり多い気がする。よりショットを効果的にする為、将来的に怪我の防止となる為の指導は行っている。
- 大人数及び様々なレベルのジュニアが混在するため、独自の手法でやらざるを得ない。
- 年齢・レベルを分けずに合同でレッスンする際、ボールを混ぜて球出しを行う事でどの子供も3種類のボールを打つことになる。ボールによって弾み方や飛び具合が違うので、とっさに打つ時の力加減やフットワークに気を付けなければならなくなる。そういった目で見た事を早く判断して動作に活かす練習を行っている。
- クラスのレベル・コーチによって多少違いはあるが初心者が入った時やラリー練習にもっていきたい時などに行っている。
- 自社のレッスン時間やレベル分けによるクラス設定を考えての時間配分や内容を考えて統一している。
- 大人数でレッスンを実施している為、ダウンサイジングを人数に合わせて実施している。
- 小学生のクラスは特にマニュアルでボールの種類、コートの大きさを決めている。
- レッドボールを使わずスポンジボールを使用。
- 年少のクラスがないのでグリーンボールスタートで行っている。

⑦PLAY+STAYの指導方法の内、ITF推奨の内容で最も大切と考えレッスンで実行していることはどのようなことでしょうか？

- 年齢・体格に合わせた道具・コートで簡単に楽しく。(24)
- 始めたばかりの子供たちにもラリーやゲームの楽しさを伝えられるようにしている。(21)
- ラリーを楽しむこと。(20)
- ゲーム性を重視。(18)
- 子供たち自身で考えさせてプレーさせること。チャレンジさせること。(18)
- テニスはゲームが楽しいこと。(16)
- ゲームベースアプローチを大切にしている。(13)
- 楽しませる。(7)
- ボールを狙った場所にコントロールするという意識付け。(3)
- サーブ・ラリー・スコア。(3)
- テニスを好きになってもらう。(3)
- 向上心(3)
- 人との関わり、テニスのルール・マナー。(3)
- コート感覚をつかむこと。(2)
- 「空間認識能力」を鍛えるラリーする力を大切にしている。(2)
- コーディネーション。能力UPするためのトレーニング。(2)
- ノーグリップ・ノーフォーム。(2)
- 挨拶や声の掛け合い、ジュニアがテニスを面白く興味を持ってもらえるようなコミュニケーション能力を大切に考えている。(2)
- EASY&ENJOYの考え方。
- 教えてはいけないと捉えてしまう所を「いい指導をする」「的確な指導をする」と捉えて、研修・実践している。
- 早い段階での片手の導入をコートの広さ、ボールの種類、道具の種類で最初から身につけられる点。
- “できないだろうからやらない”ではなく、いろんなプレーを見せて“やってみよう”のスタンスでレッスンを実施している。
- コーチがしっかりと観察をすること。
- コーディネーションドリルでウォーミングアップを行っている事。
- 「楽しませる」ではなく「コーチも一緒に楽しむ」をモットーにしている。
- 大人と同じスタイルでプレーさせること。(例：片手で打つことやサーブ&ボレーの有効性を伝える事)
- 調整能力を育てる。
- 競い合いお互いに成長できることでテニスの継続率向上につながっていくと考えている。
- 子供たちがプレイすることがワクワクするドリルや内容やアクセント。
- 自主性を重んじるコーチの声掛けや立ち居振る舞い。
- 子どもたちと多くの会話が生まれたこと。
- 指導方法も褒めることを中心にし、子ども達のやる気を引き出すようにしている。
- 最初にあまり言い過ぎないようにしている。
- 口を出さない。
- 子供たちに無理のないような指導を行っている。
- 指導者と生徒が同じ目線でテニスをしていけること。



⑧PLAY+STAYの指導方法が貴社の指導方法と馴染まない点などがありますか？

- 特にありません。(56)
- 基本フォームを身につける指導方法(球出し等)を行っているためPLAY+STAYの指導方法が馴染まない。(14)
- フォームの指導が少ないと保護者からは、指導に対しての疑問を待たれる方は多い。(13)
- 大人数対応(12)
- 全スタッフが対応しきれない状況に困っている。コーチのレベル差。(8)
- 教えないという点(4)
- 教えるスタンスで指導していきたい。(グリップ・スイングの方法など)(2)
- 自ら考えられない子ども、上手く出来ない子についてはコーチがティーチングをすることで補助している。(2)
- ノーフォーム(2)
- ボールで遊ばせる時間が長い。(2)
- 体格とコートのサイズ・ボールがなかなかマッチしないこと。(2)
- コーチがただやらせているだけになる危険性がある。
- 子供たちへの細かなアドバイスができないこと。
- 同じような内容になりやすくメリハリがなくなりがちである。
- 統一的なカリキュラムが作りにくいこと。
- レッドボールにおけるコートの広さ。
- オムニコートの為、9mラインの設定が上手くいかない。(ラバーライン等で対応している)
- ネットをたくさん使用する。
- コート使用方法。
- 導入段階では効果的だが発展性が感じられないために、ある程度のレベルに達すると限界がある。



⑨PLAY+STAYに対して貴所または貴社に於ける取り組み方針や方向性についてのお考えをお聞かせください。

- 従来のテニススクール指導と融合させ、オリジナルのプログラムを作る。(31)
- ラリーを楽しむこと。ゲーム性を楽しむこと。早い段階からテニスを楽しむことのできるスクール運営。(21)
- コーチの育成・研修をしていく。(11)
- 多店舗でのスクールを展開しているため、方向性の統一は不可欠であるとする。(9)
- テニスの楽しさを今後も伝えていけるようにしていきたい。(6)
- ジュニアだけでなく一般初心者・年配者にも取り入れていく。(5)
- 長くテニスが続けてくれる事を目指してレッスンをしている。(4)
- レッド大会・オレンジ大会・グリーン大会などを開催したい。(4)
- 前向きな姿勢で取り入れようと思う。(4)
- テニスができる環境を作り、楽しさを伝え、テニス普及を進めていく。(4)
- ジュニアスクール生一人一人に渡す上達シート・ノートの作成。(3)
- 育成クラスへのスムーズな移行。(3)
- クラス設定を細かくし上手になっていく姿とゲームに興味を持っていく流れを両立させていくこと。(3)
- 利用しているし、取り入れようと考えているが・・・、見直しを検討中。(2)
- ウォーミングアップ時にコーディネーションドリルを取り入れて進めていく方向。(2)
- お客様(特に保護者)の要望とも合わせて実施していく。(2)
- 大会の数が增多ることが、PLAY+STAYの普及につながると思うので、各都道府県、市町村でも大会が実施してほしい。(2)
- 子供たちの可能性・自主性を最大限引き出していけるツール、考え方だと思う。(2)
- テニス人口(ジュニア)をしっかり確保する。地域、小学校等としっかりとした連携が取れれば理想。
- 俊敏性などの運動能力向上にも繋げていくことを方向性として取り組んでいきたい。
- どうやったらもっとお客様が楽しみながら、上達出来るかを考え取り組んでいきたい。
- ボールに慣れること、子供たちの自由な発想を大切にしていく。
- 「楽しませる」ではなく「コーチも一緒に楽しむ」をモットーにしている。
- ゲームベースアプローチで指導するにあたって子どもや初心者にはPLAY+STAYは不可欠である。
- PLAY+STAYを通してマナーやルール等の公共性を身につけさせる。



⑩PLAY+STAYは日本のテニス界において、将来どうあるべきとお考えでしょうか？

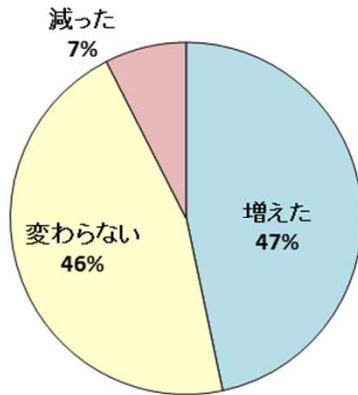
- テニス人口の裾野を広げる為に必要な取り組みだと思う。(19)
 - もっとメジャーに！(12)
 - テニスに拘りすぎず、子どもから大人まで体を動かすための一つのツール。子供だけでなく高齢者の方向けの運動にも役立てていける。(9)
 - 日本人がテニスで強くなるためには絶対に必要なものであると考えている。(8)
 - レッスンのスタンダードメソッドになるべき。(8)
 - コーチのレベル・スキルアップが不可欠。(7)
 - 日本独自のシステムの構築。(6)
 - 大会が増えるべき。(6)
 - 従来の段階的指導法との融合が大切。(5)
 - PLAY+STAYを通してテニスの「楽しさ」を伝え続ける。(5)
 - 小学校の授業、イベント等にしっかり参入していくべき。(4)
 - もっとテニス関連団体が協力して連携していく必要がある。(4)
 - 日本でもPLAY+STAYによって育ったプロが増えればと思う。(4)
 - いつはじめても楽しく上達ができるというスポーツになる。(4)
 - こどもの成長、可能性を引き出すプログラムとして多く認知され、テニス普及の柱となっていくもの。(3)
 - もっとキッズ層への歩み寄りが大事。(2)
 - 早い段階で興味を持ってもらえるように各事業所でのイベント開催が必須事項になってくると思う。(2)
 - 世界のトッププロを誕生させるプログラムになること。(2)
 - テニス雑誌やテレビ等で実際に取り入れた内容でのレッスン紹介など行って広めていく。(2)
 - イエローボールだけがテニスという考え方を世間の大人たちが変えられるくらいまでPLAY+STAYのテニス社会を作れると良い。(2)
 - 公園・幼稚園・小学校・老人ホーム・体育館に当たり前にあるように。(2)
 - 継続あるのみ。
 - 大きな大会期間中のイベント実施、大型ショッピングモールなどでのイベント等を行い多くの方に手軽にテニスの楽しさを知ってもらう。
 - 常識。グローバル化。
 - 学校の部活レベルでもその考え方を落とし込み、実施することができれば良いと思う。
 - 高齢化しているテニス競技者の平均年齢を下げるツールになって欲しい。
 - 子供たちの食生活も含め、体力・体格の格差に問題があると思う。参加者の全体の約2割が年齢に見合った体格・体力を有していない。導入だけではなく保護者への勉強会的なことも行えると良いかと思う。
 - 強化への発展の為に様々なコーチの発表の場を設けるべき。またナショナルコーチの考え方にテニス界全体が左右されがちなので、ベーシックな指導について熟知している方々の公での発表の場も望む。
-
- 今のところ、将来的なイメージがあまり持っていない。
 - PLAY+STAYという名称から脱却すること。
 - ブームにはならないと思う。
 - コートの問題。キットを買ったり作ったりするのがハードルになっているようにも思う。底辺となる地域のスクールにはその余裕がない。

PLAY&STAY導入後、貴所の変化について伺います。

回答事業所数 121

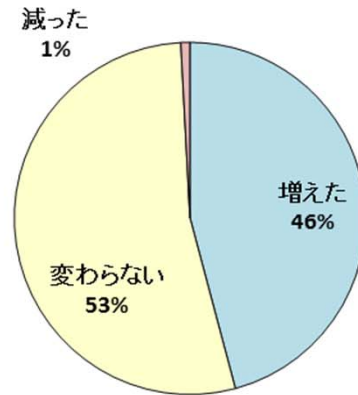
①ジュニア会員数に変化はありますか？

増えた:56 変わらない:55 減った:9



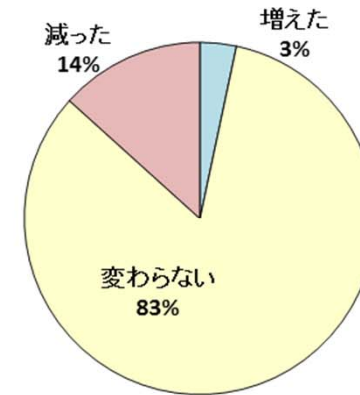
②ジュニアの体験レッスンからの入会率に変化はありますか？

増えた:55 変わらない:64 減った:1



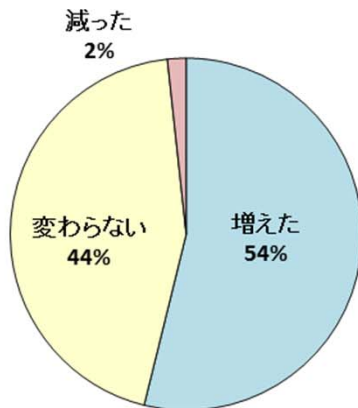
③ジュニア会員退会率に変化はありますか？

増えた:4 変わらない:100 減った:16



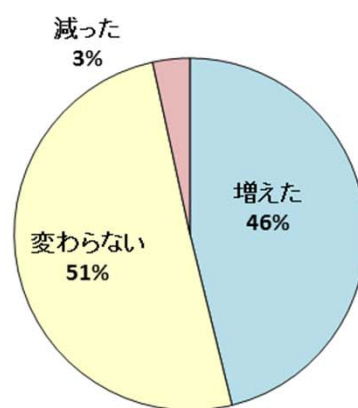
④ジュニアの大会参加者数に変化はありますか？

増えた:63 変わらない:52 減った:2



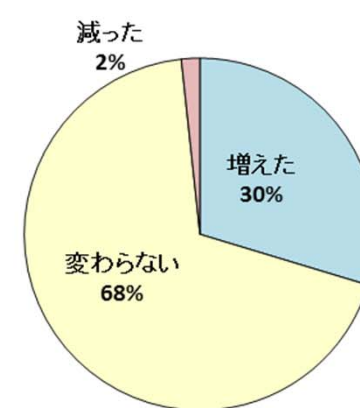
⑤貴所に於けるジュニアの大会開催数に変化はありますか？

増えた:54 変わらない:59 減った:4



⑥ショートテニス大会なども含め外部への大会参加者数に変化はありますか？

増えた:35 変わらない:81 減った:2

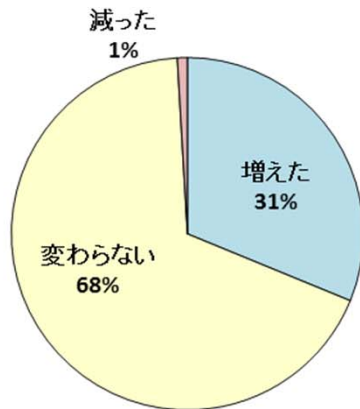


PLAY&STAY導入後、貴所の変化について伺います。

回答事業所数 121

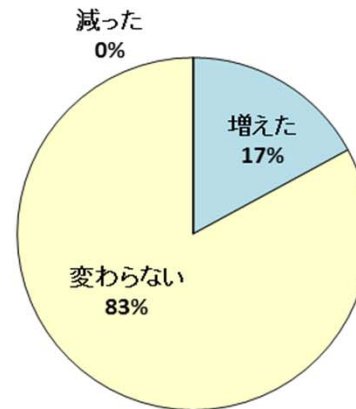
⑦PLAY+STAY導入前に比べて、育成クラスへの参加希望者数に変化はありますか？

増えた:34 変わらない:74 減った:1



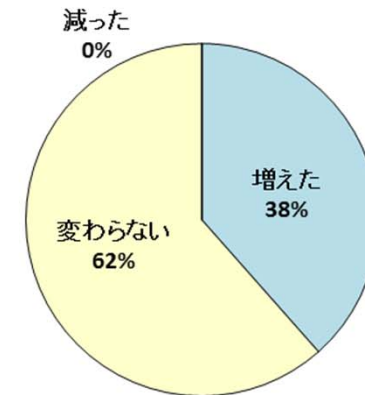
⑧レッスン時に保護者の見学する人数に変化はありますか？

増えた:20 変わらない:97 減った:0



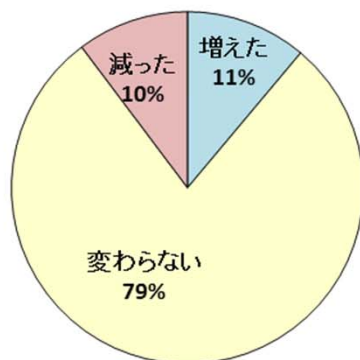
⑨子どもが楽しそうにしているのを見て保護者がスクールに入会する人数に変化はありますか？

増えた:45 変わらない:72 減った:0



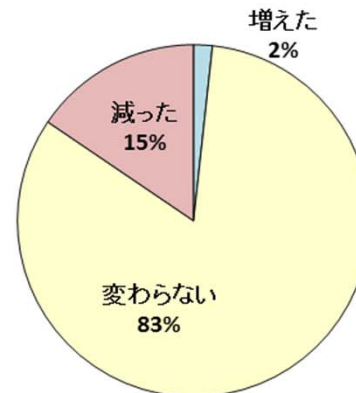
⑩クレームの数(導入直後)は導入前と比べ変化はありますか？

増えた:13 変わらない:92 減った:12



⑪クレームの数(最近～現在)は導入前と比べ変化はありますか？

増えた:2 変わらない:96 減った:18



- コーチのスキルアップ・研修が課題。(19)
- 特にありません。(15)
- 保護者からしっかりと打ち方等の指導をしてほしいという声が多い。(10)
- スタッフ(コーチ・フロント)の個々の解釈に幅があり、統一するのがとても難しい。(9)
- 練習メニュー(ドリル等)の知識不足。(6)
- 経費がかかる。(5)
- どんなにPLAY+STAYが普及しても中学に硬式テニス部がないと辞めてしまうので硬式テニス部を増やす活動をする必要があると思う。(4)
- 昔からのコーチングスタッフに受け入れられづらいこと。(3)
- 大会が少ない。(3)
- 従来の指導法との融合が課題。(3)
- ボールの耐久性。(3)
- PLAY+STAYに関するセミナーなどになかなか参加できない。(2)
- ティーチングとコーチングの割合。(2)
- 幼稚園・保育園からの導入が必要。(2)
- 育成コースへの移行が課題。(2)
- この手法が導入されても出来ない子がいる事実を理解し、本当の意味で多くの子ども達がテニスを続けて頂ける方法を見出す事。(2)
- 「教えない」という誤解が多い。
- レッドの片手の導入を既存の子へ導入したいのですがまったく力がないので難しい。
- スタート時にダブルハンド、シングルハンドのどちらを選択すべきか。両方ありで考えたほうがよいか。
- ジュニアだけでラリーさせる時の安全管理。
- レッスン時間が足りなくなり60分→75分へ変更した。
- 子供の大会への参加状況が変わらない事が課題。
- テニスを習い事の第一と考えてくれる子供がまだまだ少ない。
- PLAY+STAYの日本語は？
- 週1回のレッスン生の上達度合いが遅いことが課題。
- 試合方法やスコア方法について指導していくのが課題。
- HP・チラシなどの媒体を使って、PLAY+STAYの良さを効果的に伝える方法が分からない。
- 顧客に対し根気強く啓蒙活動を続けていくことが必要。
- 人数的な結果が下がっているので今後の在り方を検討中。

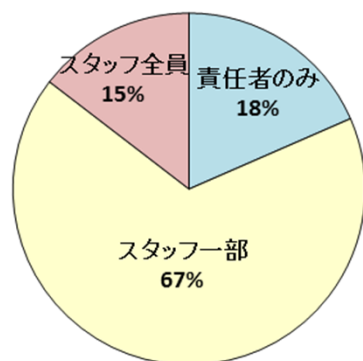


大人向け用PLAY+STAY「Tennis Xpress」について伺います。

回答事業所数 121

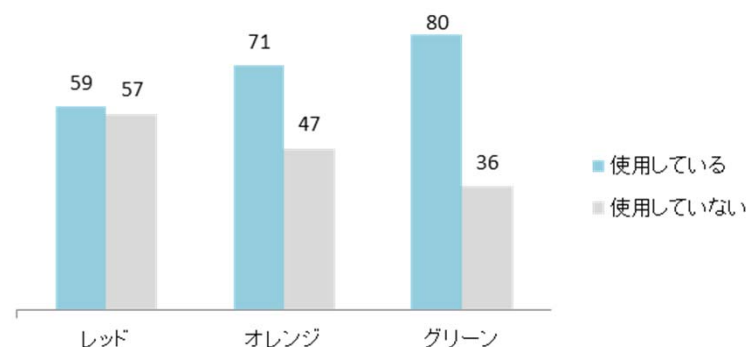
①貴所内において「Tennis Xpress」を認知しているスタッフの状況は？

責任者のみ知っている	22
スタッフの一部は知っている	69
スタッフ全員が知っている	15



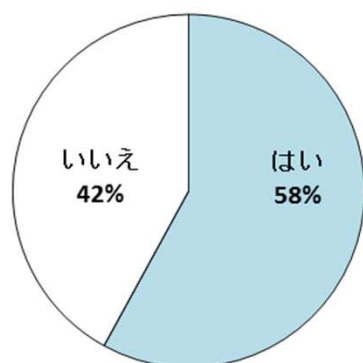
②一般(大人)クラスにおいて、PLAY+STAY用のボールを使用していますか？

	使用している	使用していない
レッドボール	59	57
オレンジボール	71	47
グリーンボール	80	36



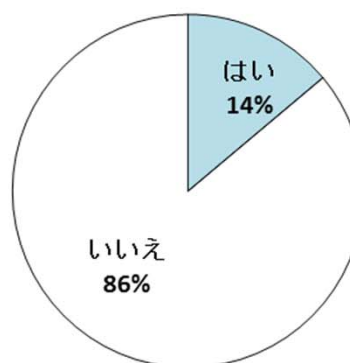
③一般(大人)クラスにおいて、PLAY+STAYの主旨・考え方を導入していますか？

はい : 69	いいえ : 50
---------	----------



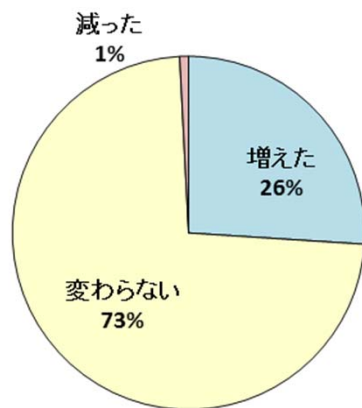
④「Tennis Xpress」というプログラム名称を全面に押し出していく予定はありますか？

はい : 16	いいえ : 99
---------	----------



①ベイビーステップのテレビ放映後にジュニアの参加者数は？

増えた:32 変わらない:90 減った:1



②ベイビーステップとPLAY+STAYのコラボレーション企画は？

あった方がよい:99 どちらでもよい:23 無くてもよい:1

